発達障害児の父親・母親における家族観について

横　井　茂　夫[1)]

目　的：高学歴社会が進み、男女平等の意識が高まり、ほとんど全ての女性が仕事をもった経験がある現在、家庭・家族に関する考え方も変化してきている。一方、母親の出産高齢化、分娩数の減少により乳幼児の数は減少している。このようななかで乳幼児健康診査が実施され、発達障害児の早期発見・早期療育が行なわれているわけであるが、従来のような発達障害児に対する早期療育だけではなく、障害児の家庭、父親・母親へのサポートが必須であると考えられる。そこで今回は、そのサポートのための基礎資料を得ることを目的に、発達障害児を持つ父親と母親の家庭・家庭観について検討したので報告する。

方　法：世田谷区立総合福祉センターの育成保育（障害児保育）に通所中の幼児（２～４歳）の両親（父親27～51歳　平均35.7歳、母親26～43歳　平均33.1歳）２５組に、「家庭の健康について」と題して、家庭・家庭観についてアンケート調査を行なった。アンケートは３６問からなり、無記名で各々父親・母親同時に行なった。

結　果：今回のアンケート調査の結果は、

①ＮＨＫ世論調査研究所の行なった「家族観に関するアンケート」調査と比較検討すると、健常児の家庭の父親・母親とほぼ同じような結果であった。

②障害児をもつ父親と母親との間に差のある項目がみられた。

問７③「家庭こそが最後のよりどころだ」に対して、そうは思わないと答えたものは父親１名、母親７名であった。

問１０①「家庭生活では、家族の団らんだけではなく、一人ひとりの時間を持つことを大切にしたい」については、父親０名、母親３名である。

問１０②「仕事のためには日常の家庭生活がおろそかになっても仕方がない」では、父親２名、母親は全くそうは考えていない。

問１０③「いったん夫婦になった以上は、たとえどんなことがあっても、離婚すべきではない」に対して、父親は６名であるのが母親はこの

１）都立母子保健院

ように考えていない。

問１１「あなた方ご夫婦は、よく気が合う夫婦だと思う」で気が合うとした父親は２０名に対し、母親１３名であった。

問１４「毎日の生活のなかで、何か心が満たされず淋しい」と感じるのは、父親５名に対し母親１２名である。

問１５「疲れやストレスがたまってイライラする」と感じるのは、父親９名に対し母親は２１名と圧倒的に多い。

問１９「あなたは心身ともに快調ですか」に対しては、父親１４名、母親５名と母親の方が心身不調のようである。しかし、問２０「あなたの配偶者は心身ともに快調ですか」では、父親９名、母親７名で互いの評価には差はみられない。

考　察：今回の調査で、父親は母親に比べ家庭を肯定的・プラスの方向性をもって評価する傾向を認めた。このことは障害児を育てていくのに大切なことである。一方、父親が仕事のためには日常の家庭生活がおろそかになっても仕方がないと考える人が多く、父親の育児参加が建前と本音が異なる危険性をもっていると考えられる。

　また、父親に比べ母親の心身の不調を訴える割合が多く、今後は父親の育児参加と母親の心の余裕づくりへの援助が必要と思われる。

表　父親と母親とに差のみられた質問項目

問7③「C．家庭こそが最後のよりどころだ」

	父親 N	父親 (%)	母親 N	母親 (%)
そう思う	19	(6)	16	(64)
そうは思わない	1	(4)	7	(28)
何ともいえない	5	(20)	2	(8)

問10③
A：いったん夫婦になった以上は、たとえどなことがあっても、離婚すべきではない
B：夫婦になったからといっても、正当な理があれば、離婚したほうがよい。

	父親 N	父親 (%)	母親 N	母親 (%)
A	6	(24)	0	(0)
どちらかといえばA	5	(20)	8	(32)
どちらかといえばB	6	(24)	4	(16)
B	2	(8)	9	(36)
何ともいえない	6	(24)	4	(16)

問11　あなた方ご夫婦は、どのようなご夫婦ですか「よく気が合う夫婦」だと思いますか。それとも、そうは思いませんか。次の中からお答えください。

	父親 N	父親 (%)	母親 N	母親 (%)
そう思う	9	(36)	1	(4)
どちらかといえばそう思う	11	(44)	12	(48)
どちらかといえばそうは思わない	2	(8)	5	(20)
そうは思わない	0	(0)	2	(8)
何ともいえない	3	(12)	5	(20)

問15　あなたは、毎日の生活のなかで次のように感じることがありますか。
「B疲れやストレスがたまってイライラする」についてはいかがでしょうか。

	父親 N	父親 (%)	母親 N	母親 (%)
いつも感じている	4	(16)	10	(40)
ときどき感じることがある	5	(20)	11	(44)
たまに感じることがある	13	(52)	4	(16)
まったく感じない	2	(8)	0	(0)
何ともいえない	1	(4)	0	(0)

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

目的:高学歴社会が進み、男女平等の意識が高まり、ほとんど全ての女性が仕事をもった経験がある現在、家庭・家族に関する考え方も変化してきている。一方、母親の出産高齢化、分娩数の減少により乳幼児の数は減少している。このようななかで乳幼児健康診査が実施され、発達障害児の早期発見・早期療育が行なわれているわけであるが、従来のような発達障害児に対する早期療育だけではなく、障害児の家庭、父親・母親へのサポートが必須であると考えられる。そこで今回は、そのサポートのための基礎資料を得ることを目的に、発達障害児を持つ父親と母親の家庭・家庭観について検討したので報告する。